

基礎医学委員会 ICLAS 分科会（第 21 期・第 1 回）議事要旨

日時：平成 21 年 5 月 13 日（水）10:00～11:30

場所：日本学術会議 5 階 5-B 会議室

出席者：伊藤豊志雄、鍵山直子、北島政樹、玉置憲一、八神健一、渡辺 守

欠席者：篠田義一

玉置世話人の司会で議事が進行された。

報告事項

1. 分科会委員の自己紹介の後で、玉置世話人から ICLAS の説明がなされた。
 - ・ICLAS は実験動物科学の唯一の国際機関であり、日本学術会議はその National Member である。
 - ・ICLAS は実験動物の品質向上が主目的であったものが、現在では実験動物の愛護にその活動目的が移っている。
 - ・実験動物の愛護活動において欧米で考え方に大きな隔たりがあり、日本は両者の間にあってその役割が期待されている。
 - ・実験動物分科会との役割分担を明確にする必要がある。（実験動物文科会は国内、ICLAS 分科会は国際）

検討事項

1. 役員の選出：
玉置委員長、渡辺副委員長、伊藤幹事が選出された。
2. 分科会活動方針について：
 - ・日本の動物実験の規制の実態を紹介するために、省庁の縦割りでない横断的な組織としての日本学術会議を活用する。
 - ・実験動物分科会と連携し、これまで日本学術会議が国内の実験動物や動物実験の法や実施体制の整備に果たしてきた役割を継承する。
 - ・実験動物科学や動物愛護活動に関する ICLAS の対応窓口だけでなく、国際的な情報発信窓口となる。
3. 2009 年 ICLAS 理事会への対応：
 - ・6 月 1 日と 2 日にウルグアイのモンテヴィデオで開催される ICLAS 理事会に、玉置 ICLAS 副会長と鍵山理事が出席する。
4. その他
フリー討議の中で、以下のことが問題点として指摘された。
 - ・日本での取り組みに関し、法体系や運営がルールであるといったネガティブな発言をする関係者が多く、日本のシステムをポジティブに説明する関係者が少ない。
 - ・この状況について、日本では GLP（薬の安全性）、カルタヘナ（遺伝子組換え生物の拡

散防止)、放射線取扱等、末端まで法で規制している部分と、動物愛護のように法で末端まで規制していない部分（自主規制）があるシステムを採用していることの周知が不足している。

- ・ 医学部の教育現場では大型の動物がほとんど使われなくなっている。
- ・ 臨床医学関係の実験動物ユーザーにおいては使い易さが重視され、動物愛護精神が十分に伝わっていない。